

例【くじゅうの野焼きを題材として】（対象：中学生）

1 ねらい

今や観光名物となっているくじゅうの野焼きについて、実際に野焼きを行っている牧野組合の方々や、くじゅう高原を目当てに来る観光客の人々から、くじゅう高原に対する思いを聞き取ることにより、野焼きと自然保護の関係について、その是非及び今後のくじゅう高原の自然保護の在り方について考え、その考えを自分の行動に活かすことができる。

2 学習計画 冬期から4月まで（12時間扱い）

① 現地学習（3時間）

- ア 九重青少年の家にて周辺散策
- イ 牧野組合の人々の思いや苦勞について聞き取り調査。
- ウ 観光客への聞き取り調査（来た動機や実際に来てみての感想等）。

② レポート作成（1.5時間）

- ア くじゅうの自然環境の特徴についてまとめる。
- イ 聞き取り調査の結果をグループ毎にレポートにまとめる。
- ウ レポートをまとめる段階で、相反する考えがあれば、課題として取り上げさせる。

③ 課題の出し合いとテーマの設定（0.5時間）

④ テーマの検証（2時間）

出された課題から、「今後も野焼きを続けるべき」「野焼きは中止すべき」2つのグループに分かれ、それぞれが正しいという立場で根拠を探す。

例 『野焼きは今後も継続すべきか？、中止すべきか？』

○「今後も野焼きを続けるべき」の根拠例

- やめると環境が変化し、観光客が減少する可能性がある。そうなると、ホテルや旅館、レストランや売店の売上げが落ちる。
- 自然保護意識を広めることができる。
- ボランティアの参加で人の問題は解決できる。
- 貴重な自然が残せる。等

○「野焼きは中止すべき」の根拠例

- そもそも野焼きは草原を守ることがねらいであり、酪農家が減った現在では自然に任せべきではないのか。
- 酪農家の負担が軽減できる。
- ボランティア活用は、未経験から事故の可能性が増す。火事になれば自然破壊になる。
- 今その場所で生活している動植物に危害を加えることになる。
- ダイオキシン問題から考えても好ましくない。
- 広範囲に焼くということは、CO₂排出につながる。等

⑤ 2グループによるディベートを行う。（1時間）

※ どちらが正しいかまで追求する必要はない。数多くの根拠を出し、聞く中から、自分が考えもしなかった一面に気付かせる。

⑥ ディベート後の気づきをまとめる。（0.5時間）

⑦ 他の地域で似た事例はないか、再度調べ、今後の野焼きの是非について、自分なりに考え、今後の自分の行動計画を作る。（2.5時間）

⑧ 考えを発表し、分かち合う。（1時間）

3 評価のポイント

- ① 現地学習で気づきをメモできたか。
様々な立場の人に聞き取りができたか。
- ② 聞き取り結果をまとめることができたか。
課題を見つけることができたか。
- ③ 課題を発表できたか。
- ④ 自分の立場で根拠を探ることができたか。
- ⑤ 相手の意見を聞き、反論すべき所は反論できたか。
相手の意見が的を射ている場合は、受け入れることができたか。
- ⑥ 気づきをまとめることができたか。
- ⑦ 他の地域の事例を調べることができたか。 自分の住む地域に似た事例はないか調べられたか。
今後の野焼きの在り方について自分なりに考えられたか。
自分なりの行動計画を考えることができたか。
- ⑧ 自分なりの行動計画を発表できたか。 友だちの考えを聞き、受け入れることができたか。

【配布資料】

くじゅうの野焼き



くじゅう高原では、野焼きが毎年3月下旬に一斉に行われます。

野焼きのあとは、黒々とした山肌がのぞきますが、やがて黄色のキスミレ・コバルト色のハルリンドウなどが花を咲かせ、4月にはワラビ・ゼンマイなどが芽を出しはじめます。くじゅう高原の大草原は毎年行われる野焼きで保たれている自然です。

野焼きを止めると草原はノリウツギ林からミズナラ林になってしまいます。しかし 広大な草原を一気

に焼き払う野焼きは、時としてきわめて危険な作業です。

平均的草原でも野焼きの際の温度は摂氏600～800度に達し、延焼速度は秒速0.2～8メートルになるといわれています。地形や風向きを考慮して火を付けないと、火に巻き込まれて、逃げる間もなく命を落とす可能性もあります。また、火の付け方を間違えると山火事になることもあります。

そこで大切になるのが、夏から秋に行われる防火線づくりです。防火線とは幅5～10メートルの無草地帯を確保して周囲への延焼を防ぐものです。

防火線づくりの草を切ることを「輪地切り」、その後を燃やすことを「輪地焼き」といいます。

しかし、農家の高齢化や牛肉輸入自由化による畜産農家の減少で、野焼きをやむなく中止する地区が年々増加してきています。

そのため、冬枯れのままの燃えやすい状態の草原も、目立つようになってきています。

【映像資料】

『夢ふる高原、九重から』 20分 VHS 九重青少年の家所蔵